

第4次軽井沢町

子ども読書活動推進計画

令和7年4月

軽井沢町教育委員会

軽井沢町立図書館

# 目 次

## 第1章 計画策定にあたって(基本方針)

---

1 策定の目的	1
2 国の動向	2
【参考】国が定めた不読率の目標	4
3 県の動向	5
4 県内市町村における「子ども読書活動推進計画」の策定状況	6
5 軽井沢町の動向	7
6 計画の目標	7
7 計画の対象	7
8 計画の期間	7

## 第2章 町内関係団体調査

---

1 調査対象施設	8
2 蔵書数	9
3 1回の貸出可能冊数	10
4 令和5年度の1人当たりの平均貸出冊数	11
5 読み聞かせ・おはなしの会の実施について	12
6 読書ボランティア活動について(PTAも含む)	14

## 第3章 第3次子ども読書活動推進計画

---

### 取り組みの現状と反省 (団体)

---

・軽井沢幼稚園	・聖パウロ幼稚園	16
・森のようちえんぴっぴ		17
・東保育園	・中保育園	18
・西保育園	・南保育園	19
・おおきくなあれ保育園	・ポピンズナーサリースクール軽井沢風越	20
・東部小学校	・中部小学校	21
・西部小学校		22
・中学校		23
・高等学校		24

・児童館	25	
・子育て支援センター	・保健センター	27
・町立図書館	28	

## 第4章 第4次子ども読書活動推進計画のための

### 今後の計画 (団体)

・軽井沢幼稚園	・聖パウロ幼稚園	・森のようちえんぴっぴ	29
・東保育園	・中保育園		29
・西保育園	・南保育園		30
・おおきなあれ保育園	・ポピンズナーサリースクール軽井沢風越		30
・東部小学校	・中部小学校	・西部小学校	31
・中学校			31
・高等学校			32
・児童館	・子育て支援センター	・保健センター	32
・町立図書館			33

## 第5章 第4次子ども読書活動推進にむけた総合的取組みについて

1 家庭において	34
2 地域において	34
3 学校等において	34
4 関係機関において	35
5 本を貸すだけじゃない	35

## 別添資料

### ○ 子どもの読書に関するアンケート調査結果

# 第1章 計画策定にあたって（基本方針）

## 1 策定の目的

軽井沢町には、昭和 51 年に政治学者故市村今朝蔵氏の遺族の寄付をもとにつくられた離山図書館があり、当時、寄贈された本など専門的な資料が多く利用者が少なかったため、町民の皆様にも利用していただくため、一般書を蔵書し、これまで住民は勿論、県内外を問わず多くの軽井沢に訪れた方々に利用されると同時に、読書推進の拠点、北佐久郡内（御代田町・浅科村・望月町・立科町）の P T A 母親文庫の配本館として利用されてきました。その当時から、「読み聞かせ」を中心に活動し童謡や民話の世界に引き込まれたように目を輝かせて聞いている子供たち、ご両親たちの姿に接し、一緒に本を読むことの大切さを学びました。

その後、平成 25 年中軽井沢駅併設の中軽井沢図書館が開館し、「子どもが読書に親しむ図書館」を念頭に置き建設。現在に至っております。

子どもにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで有効なもののひとつです。生涯にわたって学び、身につけていくべき知識や教養などを深めるための手段が読書活動です。

乳幼児期から絵本の読み聞かせなどにより言葉や絵への感性を高め、物語を楽しむ、人とのふれあいを感じ取ります。そして成長し多感な思春期を経て大人へと成長していきます。成長の過程で様々な場面でそのつど多様な本と出会い人生の指針や生きる力を与えられることとなります。

近年、パソコン・インターネット・スマートフォンなどの情報メディアの普及により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。親などの読み聞かせに代わり、携帯アプリなどからの情報の取り込み、学校では、一人 1 台のタブレットの支給により、情報や知識の取得方法、調べ学習の変化。こういったことから、子どもの活字離れは今後一層進むことが考えられるものとなっております。

そのため、子どもの年代ごとに情報メディアの効果的な取り組みを行うとともに、子どもたちの読書環境を整備することで、主体的な読書活動に取り組むことが必要になります。

こうしたことも踏まえ、軽井沢町では図書館を運営していくなかで、子どもが読書に親しむ環境づくりや、アーカイブなどにより学校や家庭、地域との連携を深め、図書館を通じ人と人とのふれあい、コミュニケーションを高めていくことが、これからの軽井沢町を担う子供たちの成長に重要で大切なものと考え、地域全体で取り組み、推進するための目標としてこの計画を策定しました。

## 2 国の動向

### 「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」

(令和5年度から令和9年度)

平成13年に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)に基づき、計画期間を概ね5年とし、第五次子どもの読書活動推進に関する基本的な計画を、子どもの読書活動の推進に関する有識者会議により策定した。

#### ◎近年における子供の読書活動に関する状況等

増加している点：図書館数、図書館でのオンライン閲覧目録の導入率、学校司書を配置する割合は増加

減少している点：図書館の児童用図書の貸出冊数、全校一斉の読書活動を行う学校の割合は減少

#### ◎基本の方針

以下の四つの点を理解し社会全体で子どもの読書活動を推進していく事とした。

##### ①不読率(※1)の低減

- ・就学前からの読み聞かせ等の促進、入学時等の学校図書館のオリエンテーション等の充実
- ・不読率が高い状態の続く高校生：探究的な学習活動等での図書館などの活用促進

##### ②多様な子供たちの読書機会の確保

- ・障がいのある子ども、日本語指導を必要とする子ども等、多様な子どもの可能性を引き出すための読書環境の整備

##### ③デジタル社会に対応した読書環境の整備

- ・社会のデジタル化、GIGAスクール構想等の進展等を踏まえ、言語能力や情報活用能力を育むとともに緊急時等を含む多様な状況における図書への継続的なアクセスを可能とするために、図書館及び学校図書館などのDXを進める

##### ④子どもの視点に立った読書活動の推進

- ・子どもが主体的に読書活動を行えるよう、子どもの意見聴取の機会を確保し、取り組みに反映させる

## ◎子供の読書活動の推進体制等

- ・国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化、その他必要な体制整備に努める
- ・都道府県、市町村は、子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画策定に努める

## ◎子どもの読書活動の推進方策

- **家庭**・**地域（図書館）**・**学校等**が中心となり、社会全体で取り組む必要がある

### I **共通事項**

- ① 連携・協力                      ②人材育成                      ③普及啓発
- ④発達段階に応じた取り組み                      ⑤子どもの読書への関心を高める取り組み

### II **家庭**

- ・家庭で教育支援の一環として位置づけ家庭での読書活動の習慣化を推進・・・「ブックスタート（※2）」、「家読（うちどく）」等の活動推進

### III **地域（図書館）**

- ・多様な子どもたちの読書機会の確保
- ・デジタル社会に対応した読書環境の整備（デジタルアーカイブの充実等）
- ・子どもの視点（YAコーナーの設置等）
- ・図書館の設置・運営及び資料の充実
- ・司書等の配置の確保

### IV **学校等**

- ・多様な子どもたちの読書機会の確保（図書館、ボランティア等との連携）
- ・デジタル社会に対応した読書環境の整備
  - （1人1台端末の活用・学校図書館システム等のリンク等）
  - （電子書籍貸出サービスの導入）
- ・子どもの視点
  - （子どもの意見聴取の機会の確保）
  - （図書委員等、子どもの学校図書館運営への主体的な参画）
- ・学校図書館資料の計画的整備
- ・司書教諭、学校司書の配置の促進

.....

(※1) 不読率

1か月の間に本を1冊も読まない児童生徒の割合

(※2) ブックスタート

主に市町村自治体の事業として実施される。赤ちゃんとその保護者に、子育て情報とともに絵本を手渡し、絵本を介して心が触れ合うひとときを持つきっかけを作る活動

.....

**【参考】国が定めた不読率の目標**

「第四次基本計画」より

資料は「公益社団法人全国学校図書館協議会の学校読書調査」を使用しています。

不読率目標は・小学生2%以下 ・中学生8%以下 ・高校生26%以下と定める。

- ◎「学校読書調査（調査対象：小学校4年生から高校3年生を対象に5月1ヶ月間での調査）」
- ◎「第3次軽井沢町子ども読書活動推進計画（令和元年調査 対象者：小学校2年・4年・6年生、中学校2年生、高校生の調査より）」
- ◎「第4次軽井沢町子ども読書活動推進計画」（令和6年調査 対象者：小学生・中学生・高校生の調査より）」

※児童生徒の調査対象が違うため比較することは難しいが、軽井沢町の数値は学校読書調査を下回っており、不読率は低いと考えることが出来る。国の目標率の達成にはより一層の学校図書館、公共図書館との連携が重要と考える。

(%)

	小学生	中学生	高校生
<b>国・不読率目標</b>	<b>2</b>	<b>8</b>	<b>26</b>
<b>学校読書調査 (R1)</b>	6.8	12.5	55.3
軽井沢町(第3次) (R1)	1.6	8.3	36.7
<b>学校読書調査 (R6)</b>	8.5	23.4	48.3
軽井沢町(第4次) (R6)	6.0	7.5	34.1

### 3 県の動向 「第4次長野県子ども読書活動推進計画」

#### (令和2年度からおおむね5年間)

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）」第9条第1項の規定により、長野県の基本的な施策を示すとともに、市町村や学校、読書ボランティアをはじめとする民間団体等による子どもの読書活動を推進するための指針として策定する。

#### ◎基本理念と目指す姿

基本理念：豊かな読書を子どもたちに ～発達段階に応じた取組～

目指す姿：・心や言葉を育む「読書」



・「知る」ことのたのしさをもたらす「読書」

・創造性と生きる力を育むための「読書」

・世界観を広げ、社会とかわるための「読書」

#### ※ 人生に活かす

・これからの予測困難な未来を自ら切り拓き、夢を実現する力を身に付けられる

#### ◎推進のための方策

- ・乳幼児期（ブックスタート事業や読み聞かせなど子どもが絵本や物語の世界を楽しむ取組の充実）
- ・小中学校期（おはなしの会、友人同士で本を紹介する等、様々なジャンルの本に触れることができるような取組の充実）
- ・高校期（ブックトーク（※3）やビブリオバトル（※4）等、読書への関心を高める取組の充実）

#### ◎推進体制

##### ①県の推進体制

子どもの読書活動を推進するため、学校、図書館、大学、民間団体等との連携・協力によって横断的な取組が行われるよう努めます。

市町村に対し、図書の長期貸出し等県立図書館を活用した支援を行うとともに、県内や全国の子どもの読書活動に関する情報の提供を行います。また、市町村の「子どもの読書活動推進計画」策定の支援に努めます。

## ②関係機関との連携強化

学校では「信州型コミュニティースクール<sup>(※5)</sup>」の仕組みを活用し、幅広い地域住民の参画を得ながら、朝の読書での読み聞かせ等を実施します。

図書館は、図書館相互の連携・協力のみならず、博物館・美術館その他施設との連携を推進し、情報資源の相互活用やアーカイブ化等に努めます。

.....

### (※3) ブックトーク

一定のテーマを立てて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。本の内容を教えるのではなく本の面白さを伝えること

### (※4) ビブリオバトル

「知的書評合戦」ともいわれる。自分が読んで面白いと思った本を持って集まった参加者が順番に1人5分で本を紹介する。発表後にディスカッションをし、全ての発表終了後一番読みたくなった本を参加者で投票して決める

### (※5) 信州型コミュニティースクール

学校運営参画、学校支援、学校評価機能を一体的・持続的に実施する仕組みを備えた、地域の特色を生かした実践を行う、学校と地域との協働活動を推進する学校

## 4 県内市町村における「子ども読書活動推進計画」の策定状況

調査年月日	県内市町村数	策定済	割合 (%)	策定作業中	割合 (%)	策定検討中	割合 (%)	策定予定なし	割合 (%)
平成23年3月31日現在	77	21	27.3	8	10.4	16	20.8	32	41.6
令和5年3月31日現在	77	42	54.5	0	0.0	4	5.2	31	40.3

## 5 軽井沢町の動向

平成23年に「軽井沢町子ども読書活動推進計画」、平成27年に「第2次軽井沢町子ども読書活動推進計画」、令和2年に「第3次軽井沢町子ども読書活動推進計画」を概ね5年ごとに策定し、子ども読書活動を関係機関とともに推進してきました。

町立図書館は交流施設併設図書館として平成25年4月に中軽井沢図書館が開館してから、新型コロナウイルス感染防止対策のため、やむなく閉館した時もありましたが、現在、来館者数・貸出冊数は増加傾向にあり、令和7年度には来館者200万人達成予定です。

また、平成28年、中学校建設に併せて小中学校で図書館システムを導入稼働させるにあたり指導・協力。更に、令和6年度には、システムの研修を行い令和7年度より、児童1人1台のタブレットを活用し、学校図書館へ行かなくても子どもたちが楽しみながら読みたい本と出会い、学びの情報が得られるよう、システムの導入追加にも協力しました。(本の検索機能や読書記録機能の充実)

令和5年度には町内司書監修により、ブックリストの作成も行いました。

生涯学習課の事業として行っている出前講座「軽井沢こもれびの街講座」での「おはなしお届けします」の申請増加。その他、団体貸出にも力を入れ、貸出数も増加しています。

家庭や地域などの各関係機関においても一定の成果をあげており、引き続き子どもの読書活動の推進をしていく必要があります。

## 6 計画の目標

この計画は、「軽井沢町子ども読書活動推進計画」を踏まえ、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」や県の「長野県子ども読書活動推進計画」を基本とし、子ども読書活動の指針を策定するものです。これらを考慮し、「第4次子ども読書活動推進計画」では、軽井沢町の子どもの読書活動の現状を把握するため、家庭、学校、地域それぞれに応じた読書や利用施設へのアンケートを実施し、状況、意見等を計画に反映し、将来を担う子どもたちへの夢と希望を持ち健やかに生きぬく力を持つ子どもを育てる読書活動としての指標とします。

## 7 計画の対象

対象は、0歳から18歳までとします。(保護者又は本人)

## 8 計画の期間

この計画は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

## 第2章 町内関係団体調査

### 1 調査対象施設

#### 幼稚園

軽井沢幼稚園                      聖パウロ幼稚園  
軽井沢風越幼稚園              森のようちえんぴっぴ

#### 保育園

東保育園      中保育園      西保育園      南保育園  
おおきくなあれ保育園      ポピンズナーサリースクール軽井沢風越

#### 小学校

東部小学校      中部小学校      西部小学校

#### 中学校

軽井沢中学校

#### 高等学校

軽井沢高校

#### 児童館

東地区児童館      中地区児童館      西地区児童館  
中軽井沢児童館      長倉地区児童館      南地区児童館

#### 公共施設

子育て支援センター      保健センター      町立図書館



## 2 蔵書数（令和6年3月31日時点）

軽井沢幼稚園	約 1,000冊
聖パウロ幼稚園	約 2,100冊
森のようちえんぴっぴ	300冊
東保育園	約 1,800冊
中保育園	約 2,300冊
西保育園	約 2,500冊
南保育園	2,286冊
おおきくなあれ保育園	約 500冊
ポピンズナーサリースクール 軽井沢風越	約 80冊
東部小学校	約 15,000冊
中部小学校	16,095冊
西部小学校	12,998冊
軽井沢中学校	約 18,800冊
軽井沢高校	20,447冊
東地区児童館	約 3,000冊
中地区児童館	2,074冊
西地区児童館	1,861冊
中軽井沢児童館	約 1,700冊 (コミックを含む)
長倉地区児童館	約 1,900冊 (コミックを含む)
南地区児童館	約 1,200冊 (コミックを含む)
子育て支援センター	約 600冊
保健センター	約 200冊
軽井沢町立図書館	142,818冊
うち児童	26,439冊
内訳 中軽井沢図書館	88,529冊
うち児童	22,241冊
内訳 離山図書館	54,289冊
うち児童	4,198冊

### 3 1回の貸出可能冊数

軽井沢幼稚園	5冊
聖パウロ幼稚園	本の貸出を行っていない
森のようちえんぴっぴ	
東保育園	
中保育園	
西保育園	
南保育園	
おおきくなあれ保育園	平日 10冊 休日 15冊
ポピンズナーサリースクール 軽井沢風越	本の貸出を行っていない
東部小学校	通常 2冊
	授業の資料としての貸出 制限なし
	読書旬間中・長期休暇前 3冊
中部小学校	2冊
西部小学校	通常 2冊
	読書週間中・長期休暇前 3冊
軽井沢中学校	平日 2冊 休日 3冊
	読書週間・旬間 特別貸出期間 3冊
軽井沢高校	平日・休日 無制限
東地区児童館	本の貸出を行っていない
中地区児童館	
西地区児童館	平日 14冊 休日 3冊
中軽井沢児童館	3冊
長倉地区児童館	3冊
南地区児童館	3冊
子育て支援センター	本の貸出を行っていない
保健センター	
軽井沢町立図書館	通常 図書10冊（雑誌5冊まで）視聴覚資料2本
	年末年始 または 特別整理期間前 図書20冊（雑誌10冊まで）視聴覚資料4本
	団体貸出 100冊まで （大型絵本・大型紙芝居2冊まで）

#### 4 令和5年度の1人当たりの平均貸出冊数

軽井沢幼稚園	1ヶ月平均	8冊
	1年間平均	100冊
聖パウロ幼稚園	本の貸出を行っていない	
森のようちえんぴっぴ		
東保育園		
中保育園		
西保育園		
南保育園	本の貸出を行っていない	
おおきくなあれ保育園	1ヶ月平均	10冊
	1年間平均	10冊
ポピンズナーサリースクール 軽井沢風越	本の貸出を行っていない	
東部小学校	1ヶ月平均	4.3冊
	1年間平均	52冊
中部小学校	1ヶ月平均	8冊
	1年間平均	80冊
西部小学校	1ヶ月平均	6冊
	1年間平均	66冊
軽井沢中学校	1ヶ月平均	1.3冊
	1年間平均	16.3冊
軽井沢高校	1ヶ月平均	0.44冊
	1年間平均	5.3冊
東地区児童館	本の貸出を行っていない	
中地区児童館		
西地区児童館	1ヶ月平均	1.7冊
中軽井沢児童館	1ヶ月平均	0.4冊
長倉地区児童館	1ヶ月平均	0.3冊
南地区児童館	1ヶ月平均	0.4冊
子育て支援センター	本の貸出を行っていない	
保健センター		
軽井沢町立図書館	1ヶ月平均	0.4冊
	1年間平均	4.4冊
	0～18歳の 年間貸出数	36,354冊
	年間総貸出数	167,394冊

## 5 読み聞かせ・おはなし会の実施について

軽井沢幼稚園	毎日必ず実施
	朗読ボランティア「オオルリ」による 素話や芝居仕立て
	誕生会での教師による劇
聖パウロ幼稚園	毎日、絵本や紙芝居の読み聞かせを実施
	誕生日会や季節の行事などでも、絵本や 紙芝居の内容をペープサートやプロジェク ター、劇などを通して見聞きする機会がある
森のようちえんぴっぴ	朝の集まり、帰りの集まり時に毎日実施
	入園式や卒園式、保護者会、茶話会等 折々に、保護者に絵本を読む機会がある
東保育園	年7回 ボランティアによるおはなしの会を 実施
中保育園	年7回 ボランティアによるおはなしの会を 実施
西保育園	月1回 ボランティア「くろろの会」による 絵本語りの会を実施
南保育園	年7回 ボランティアによるおはなしの会を 実施
おおきくなあれ保育園	毎日必ず実施
ポピンズナーサリースクール 軽井沢風越	実施なし
東部小学校	週1回 図書館授業内で読み聞かせを実施
	年8回 先生方（担任クラス以外）の 読み聞かせ
中部小学校	授業内での読み聞かせの実施
	ボランティア PTA本棚委員会 「おはなしクレヨン」の読み聞かせ
西部小学校	図書館の授業の際、司書が読み聞かせを実施
	読書旬間に合わせて、ボランティア団体の 「まあるいたまご」が来校し、 読み聞かせやペープサートなどを実施
軽井沢中学校	実施なし
軽井沢高校	全校生徒に向けては実施していない 年1回 保育基礎の授業を選択している生徒 に向けて、読み聞かせを実施している

東地区児童館	東部小学校「ピノキオクラブ」の読み聞かせ体験教室が1～2年生対象である
中地区児童館	長期休み中に厚生員による読み聞かせを実施
西地区児童館	月1回 幼児のつどいを実施し、その中で読み聞かせをしている
	毎日、学習が早く終わった子ども達に紙芝居を読んでいる。
中軽井沢児童館	月3回の『幼児のつどい』では、毎回絵本や紙芝居、大型絵本などの読み聞かせを実施。年中行事の中では、おはなし会を実施。
長倉地区児童館	
南地区児童館	
子育て支援センター	月2回 おはなしでてこい 0～1歳向け「あかちゃんのおはなし会」 2～3歳向け「季節のおはなし会」で読み聞かせを実施
	絵本アドバイザーなどによる子育て講演会を開催
保健センター	実施なし
軽井沢町立図書館	毎月 第3日曜日 おはなしの会
	偶数月 第2月曜日 ちいさなおともだちのおはなしの会

## 6 読書ボランティア活動について（PTA も含む）

軽井沢幼稚園	絵本の管理
	保護者のボランティア（管理・整理）
	実習生からの読み聞かせ
	朗読ボランティア「オオルリ」の読み聞かせ
	児童文学者より助言、絵本紹介
聖パウロ幼稚園	実施なし
森のようちえんぴっぴ	小学校で読み聞かせのボランティアをしている保護者達が読む本の相談に訪れるので、中澤代表の蔵書の中から毎回5冊ほど貸し出している
東保育園	実施なし
中保育園	
西保育園	
南保育園	
おおきくなあれ保育園	実施なし PTAの中で活動範囲が広がると良いと思っているので、前向きに考えていきたい
ポピンズナーサリースクール 軽井沢風越	実施なし
東部小学校	ピノキオクラブ（PTA） 年4回
	まあるいたまご（読書旬間時） 年1回
中部小学校	PTA本棚委員会 年4回
	おはなしクレヨン 月1回
西部小学校	PTA交流部による全クラスへの読み聞かせ 各学期1回ずつ
	PTA有志による読み聞かせと演奏を組み合わせたもの 年1回
軽井沢中学校	実施なし
軽井沢高校	

東地区児童館	東部小学校ピノキオクラブ
中地区児童館	実施なし
西地区児童館	
中軽井沢児童館	朗読ボランティア「オオルリ」の読み聞かせ
長倉地区児童館	
南地区児童館	
子育て支援センター	実施なし
保健センター	
軽井沢町立図書館	図書館友の会：館内整理日の書架整理 文化講座等開催時の職員補助
	点字サークル「てんまり」： 図書（絵本含む）の点訳、点字図書の作成 図書館が所蔵しているバリアフリー対応 DVDのタイトルの点訳
	朗読ボランティア「オオルリ」： 広報かるいざわ音読CDの作成 各施設での訪問読み聞かせ
	個人ボランティアによる書架整理

## 第3章 第3次子ども読書活動推進計画

### 取り組みの現状と反省（団体）

#### 軽井沢幼稚園

##### 【現状】

- 絵本を読みたい時に存分に読めるようにする。
- 毎日、礼拝後や帰りの会で読み聞かせを行う。
- 活動の導入に絵本を組み入れる。
- 食育、行事、季節、自然、SDGs～保育の全てに絵本を活用し、保育カリキュラムを組んできた。
- 絵本購入を毎月定期的に行う。  
年長 2冊（かがくのとも、こどものとも） 年中・年少 1冊
- 絵本講座への教師の出席。
- 児童文学者による勉強会の開催、本の紹介。
- なるに屋（書店）より毎月の絵本紹介・購入。
- ピオトープ、畑、散歩にも小図鑑を持って行く。

##### 【反省】

- 毎日読み聞かせ . . . 季節や行事、時候に関する読み物などその時々に合わせて毎日絵本を選び、読み聞かせた。
- 自由あそびの中で . . . 子どもたちがそのとき読みたいと思った本を個別にその場で読み聞かせることを心掛けた。
- 絵本の貸し出し . . . 子ども自身が満足できるよう、次に借りたい人がいる時以外には冊数や貸出期間を制限せず、保護者と相談して十分に楽しめるよう配慮した。
- 子どもたちは皆、絵本が大好きで集中してよく聴くことができた。
- 朗読ボランティア「オオルリ」の方に読み聞かせに来ていただいた。

#### 聖パウロ幼稚園

※聖パウロ幼稚園では絵本などの貸出を行っていないため、  
年間の様子のみ報告

- 新年度や季節ごとに業者による絵本の申し込みを斡旋し、保護者に周知している。
- 月刊絵本の『こどものせかい』を家庭数注文し、教材として使用後自宅に持ち帰り利用している。
- 活動時や昼食後、降園時に絵本や紙芝居を通してたくさんの内容に触れられるようにしている。
- 園児が好きな本を自由に手に取れるように、各クラスに絵本棚を設置している。

## 森のようちえんぴっぴ

### 【現状】

- 園舎がないので、図書館はない。卒園生たちが建ててくれた小さな「絵本のおうち」に入り、子どもたち同士で絵本を手にとって読んだり、絵本や図鑑も仲間に入れてごっこ遊びをしている。(蔵書数は300冊)
- 18年前の創立時より、絵本の時間は重要だと考えてきた。園名を「長くつ下のピッピ」にかけている理由でもある。
- 朝の集まりでは全員で1冊の絵本を楽しみ、帰りの集まりでは各グループ(2~5歳児)で、年齢に合った絵本を味わっている。絵本はそれぞれスタッフが自宅から持ち寄ったり、図書館で借りたりしている。
- 自然の中では鳥や太陽に助けられたり、飛行機の音に邪魔されることもある。絵本の静的な時間では子どもたちも絵本の世界に吸い込まれるようで、動的な動きが多い1日の中で大切な時間となっている。
- 中澤代表は福音館書店の故 松居直氏と親しかったので、絵本の面白さ、大切さを学んだ。講演などで「子育ての中の絵本」について語る機会もあり、その思いを折に触れ保護者やスタッフ達に伝えている。
- 保護者会、茶話会、色々な行事で年間15回ほど保護者の方たちに絵本の世界を楽しんでいただく機会を設けている。
- 絵本をベースにした表現カリキュラムが年に数回ある。
- 年長児は自分で描いた絵をベースにおはなしを創作している。

### 【反省】

- 「絵本のおうち」は子ども達の落ち着く場所になっている。小さな空間なので蔵書数を増やすことはできないが、少しずつ増やすことができている。

## 東保育園

### 【現状】

- 子どもたちがいつでも自由に本を選び、絵を見たり字を読んだりして楽しんでいる。
- 保育士が読み聞かせをした絵本を子どもが手に取り見ている姿がある。
- 子どもが自分で絵本を選び、保育士に読んでほしいと持ってくる。それを膝の上で読んでもらい楽しんでいる。
- 毎日絵本や紙芝居を読み聞かせ、年長児には長めのお話を読み聞かせている。
- 子どもが保育士の話だけではイメージしづらいものや実物をすぐに見られないものは、説明に絵本や紙芝居を利用している。
- 玄関で紹介している「今月のおすすめの本」を親子で見ている姿がある。

### 【反省】

- 「今月のおすすめの本」コーナーを設置したことで、親子ともに興味を向けてもらうきっかけ作りができた。
- 個々の園児に関しては、お気に入りの絵本やおすすめのお話について保護者と共有できた。

## 中保育園

### 【現状】

- 毎日クラスで職員が読み聞かせをし、絵本に親しめる環境づくりをしている。また、本棚の整理をし、興味のある絵本を自由に手に取って見たり読んだりできるような環境づくりを意識している。
- クラスだよりなどで子どもたちが興味・関心のある絵本を紹介し、保護者にも読み聞かせや親子のふれあいの時間の大切さなどを周知している。

### 【反省】

- 子どもたち 1 人 1 人が自分の興味・関心のある絵本を手にして見たり読んだりすることを楽しめていた。そのための環境づくりの工夫を各職員が心掛けた。
- 絵本に関する講座などに職員が参加することで、絵本に関する知識が深まった。
- 年に 7 回行われたボランティアの方によるおはなしの会を、子どもたちは毎回楽しみにして参加していた。回を重ねるごとに集中力も増していったと感じる。1 人の方に公立保育園 4 園を回っていただいていたありがたかった。
- クラスで楽しんでいる絵本や人気の絵本の紹介をお便りで定期的に保護者にお知らせしているが、職員によって差があった。

## 西保育園

### 【現状】

- クラスでは自由に絵本を手にとって読める環境づくりをしているため、保育士が絵本の読み聞かせを行うと、同じ絵本を探し自分のペースで本を楽しんでいる姿が見られる。
- 大型絵本を行事やクラス保育で利用し、友だちや保育士と共通のお話の世界観を味わうことができている。

### 【反省】

- 自由に絵本を見られるスペースを作ったことで、個々の興味のある書籍をゆっくりたのしむことができた。
- 読み聞かせを充実させたことで、じっくりとお話の世界を楽しむ時間ができた。お話を聞くことが好きな子どもが増えた。

## 南保育園

### 【現状】

- 絵本やお話にふれあうきっかけとなる活動を行っている。
- 保育士による読み聞かせ等を毎日行い、本に親しむ環境を作るとともに、読書活動推進のために保護者への啓発を行っている。

### 【反省】

- 各クラス年齢に合わせた絵本を子どもたちが取りやすい位置に置くことで、絵本に親しみをもち、自由に絵本を見たり読んだりできるようになっている。
- 午睡前や降園前に絵本を見る時間を作り、お話の世界を楽しむことができている。
- 絵本のコーナーで読みたい本を自由に読んだり、季節に合った絵本を読むことができ、子ども達の絵本への興味が広がっている。廊下にコーナーを設置したことがよかった。

## おおきくなあれ保育園

### 【現状】

- 当園は自由保育を取り入れているため、原則として子どもが本を読んでもほしいと持ってきた時には応答するようにしている。1人の子に読んであげていると、近くにいた子ども達も興味を持ってやってくるので、思いや想像力を共有することができ、絵本の楽しさが広がっている。絵本によって子ども同士のコミュニケーションが広がり、人間性の豊かさも育まれていると思われる。
- 玄関にはおすすめの本の紹介や「絵本たより」を担当が毎月出している。
- 特別なことがない限り、子どもの願いには応えてあげる時間を作っている。忙しくて待ってもら場合も必ず約束を守り、子どもとの信頼関係を大切にしている。
- 朝のティータイム（ミニ集会）で出欠の確認をしっかりと行い、その時々の条件状況に合った絵本を読んだり、リズム遊びにつなげている。
- 昼食後はお昼寝をしたり、好きな絵本を選んできてスタッフに読んでもらったりしている。自分でゴロゴロしながら数冊の絵本に目を通して子どもも見られる。
- 子どもたちが「面白く楽しい」大人も読んでいて「楽しい」とお互いが感じられる。そんな体験をし、成長の計り知れぬ力を養っていけるといいと思っている。
- 絵本は後に役に立つ、ためになるといった程度のものではなく、「楽しい」生きがいを感じるようになってくれればいいと思う。

## ポピンズナーサリースクール軽井沢風越

### 【現状】

- 本の貸出は行っていない。
- 子どもたちはそれぞれ自分の好きな絵本や図鑑を読んだりしている。

## 東部小学校

### 【現状】

- ・読書への楽しみを広げるため、ボランティア、PTA、担任の先生、職員による読み聞かせを定期的に行っている。
- ・朝の活動で、週2回読書の時間を取っている。
- ・調べ学習では担任の先生と協力し、タブレットも使いつつ図書館の資料を活用している。図書館としても、調べ学習の資料が充実するように心掛けた。
- ・児童達の興味や関心に応える図書もリクエストに応える形でなるべく希望に添えるようにし、図書館へ足を運んでもらえるように努力した。
- ・読書旬間には図書委員と協力し、くじ引きで読書券（追加でもう1冊借りられる券）やしおりなどをプレゼントして、盛況に実施できた。併せて先生方のおすすめの本のコーナーを作り、児童たちが興味を持ってたくさん借りることができた。

## 中部小学校

### 【現状】

- ・朝読書の充実。
- ・授業における読み聞かせ、読書旬間に合わせた先生方の読み聞かせ、親子ふれあい読書の実施。
- ・季節に応じたコーナーの設置。
- ・図書委員会による活動。（おすすめの本のポスター、読書旬間のイベント、図書館クイズ）
- ・全校に募集し、「ラビブックちゃん」を図書館の新キャラクターに決定した。

### 【反省】

読書への親しみを広げるよう、工夫を凝らして活動してきた。その結果、休み時間に図書館に本を読みに来る子ども達が増えて、本を読む楽しさが浸透してきた。

クラス数が多く、調べ学習の時間を取るのが難しいため、課題のあった本は選書して教室に貸し出している。読書活動推進としては良い結果になったと思う。

## 西部小学校

### 【現状】

- 1人1台タブレットが貸与されたことにより、教科の調べ学習の際にはタブレットを使用することが多くなった。図書館の本を活用してくれるクラスもあるが、図書館の本での調べ学習の実施には学年やクラスごとで差がある。図書館の本で調べたいとお願いされても、学校図書館には所蔵がない、数が足りない、情報が古い、ということがあり、学校図書館だけで調べ学習をするには蔵書が不十分である。そのため、本校に蔵書のない本は公共図書館と連携して司書が準備をしている。
- 全クラスで週に1時間の図書館の時間が設けられており、全クラスがコンスタントに図書館に来てくれている。そのため、ほぼすべての児童に毎週本の貸し借りができている。授業の際には、毎回司書が読み聞かせをしている。その際季節や行事に沿った本を選ぶことが多いが、月に1~2回ほど国語の単元に沿った本を読み聞かせし、教科の学習と接続できるような関連図書を促すことを心掛けている。
- 休み時間の利用に関しては、晴れの日には毎日図書館に来るような決まった子が来ることが多いが、雨の日は外で遊べないからか、普段図書館に来ない子ども達も多く来てくれている。全体としては本好きの児童が多いと感じている。
- 図書委員会では、春に1週間の読書週間、秋に2週間の読書旬間を実施している。春の読書週間では、年度初めの時期ということもあり、図書館のルールをおさらいするようなイベント（例：図書館マナークイズの放送）を実施している。秋の読書旬間では、全校生徒が本に親しみ、更に興味を持ってもらえるような取り組みを実施している。（例：家庭読書カード、先生や図書委員のおすすめ本紹介、上級生から下級生へのペア読書、担任の先生以外の先生からの読み聞かせなど）
- 毎月初めの登校日には「くじ引きの日」を設定している。本を借りるとくじ引きができ、3冊貸出券やしおりが当たる。
- 季節に合わせたコーナーを設置している。

### 【反省】

- 読書への親しみを広げるため、ボランティア、PTA、担任の先生、職員による読み聞かせなど、多様な読書活動を行ってきた。その結果、お話を楽しむ心や聞く姿勢は育ってきているように感じる。  
その一方で、児童が借りる本を見ていると、学年に相応でない本や図鑑、マンガを借りていく児童も多く、長い小説を楽しめる児童は多くない。読む力をつける、本に興味を持つ、という面では教科との連携が大切であると感じている。
- PTAや外部のお話会の方の読み聞かせなどでは、普段学校職員ができないようなものを演じてくださるため、児童は大変楽しみにしている。今後も続けていきたい。
- 子どもの多様なニーズに応える図書と、教科の学習に対応した図書を揃えることは、限られた予算の中では厳しい面もある。そのため、教科で使用したい時にその本の蔵書がない、情報が古い、ということが多々あったことが残念である。

## 軽井沢中学校

### 【現状】

- 朝の読書活動の実施。
- 図書委員会によるおすすめ本の紹介。
- 読書週間、読書旬間、夏休み・冬休み前特別貸出期間の周知と、それに伴う企画の開催。
- 図書委員会による図書館読書啓発。
- 先生、生徒による図書館に入れたい、読みたい新刊本の選書。
- 図書便りの発行。

### 【反省】

- 主な施策にあるボランティアの協力による読書活動の推進は、コロナ禍のため難しかった。
- 研修については、コロナ禍中にリモート研修の機会があり、それを受講することができた。現在は参集で行われるものが増え、なかなか学校を離れられない学校司書にとってはリモート研修が受けやすい。
- 1年生は貸出冊数が多いが、2年生以降減ってしまう傾向がある。図書館の本を読むというよりは、個人で購入した本を好んで読んでいる様子も見受けられる。また、部活や勉強に忙しく、読書をする時間がないという生徒も多い。読書が本当に好きな生徒でないと、読書をする時間を捻出できていないようである。
- 図書館にはたくさん本、色々なジャンルの面白い本があることを、まずは意識させていくことが必要である。
- 図書館では、自分の知りたい情報をわかりやすく、詳しく知ることができる本がある、ということも知らせていく必要がある。

## 軽井沢高校

### 【現状】

- 生徒各自が情報端末を使って授業を受けるようになり、図書館で調べ学習や探究学習を行う場面でも、書籍で調べるよりも使い慣れている端末を使ってインターネットで検索を行う生徒が多くなった傾向にある。  
もちろん紙の資料を使う生徒もいるが、百科事典の使い方、索引や目次、事典と辞典の違いなどを理解している生徒は少ないと感じる。
- 主体的、対話的で深い学びを行う探究学習が導入されたことで、各自問いを立てて取り組む姿は見られるが、インターネットの情報をそのまま使っている場合もあり、信頼できる情報源にアクセスし、紙の資料を複数調べた後、パワーポイント、レポートを作成するなどができていない。
- 通年で隔週火曜日に実施している朝読書の時間には読書に取り組んでいる。しかし、一部に他の事を行っている生徒がいることも事実である。高校生は授業、部活動、アルバイトなどで忙しく、スマートフォンを操作している時間もあり、朝読書の時間以外に自主的に読書しているのは一部の生徒に限られている。
- 生徒がデザインした図書館キャラクターを使ってポスター、しおり、ブックカバーなどを作成し、図書館や本に親しんでもらう機会を作っている。
- 昨年度は軽井沢町 7 校連携の 1 つとして、軽井沢風越学園発案の「本日と」のイベントで本校図書館のキャラクターがイベントのパンフレットに掲載された。
- 年 2 回の読書旬間でイベントを行い、生徒に本を借りてもらうきっかけ作りを行っている。読書旬間期間中は毎日朝読書を行い、読書の習慣づけを図っている。
- 図書館だよりを月 1 回紙で配布。Google classroom の図書館のクラスでも配信を続けている。

### 【反省】

- 生徒が 1 人 1 台の端末を持つようになり、インターネットで検索を行う機会は増えたが、紙の資料を使う機会が減ったと考えられる。
- 読書習慣の形成が課題である。今まで本に親しむ機会が少なく、読書をしてこなかった生徒に読書の良さを伝えきれていない。
- イベントを行っている時期以外で、多くの生徒に図書館に足を運んでもらうことが難しいと感じる。図書館の利用者が固定化されてしまっている傾向がみられる。

## 東地区児童館

### 【現状】

- ほとんどがマンガを好んで読んでいる。絵のあるものや写真などを見て、読むというよりは見て楽しむことが多い。
- 季節ごとに、子どもたちが興味を示すように本を展示、紹介している。

### 【反省】

- 町の図書館からも本を借り、新しい内容の読み物も楽しめるようにした。児童館所有の本よりも読まれていた。

## 中地区児童館

### 【現状】

- 来館時、読書に親しむ児童の姿が見られた。読書をする児童が固定化している。
- 児童館で所有している本の貸出は行っていない。  
そのため、館内で読もうとする姿が拡大した。
- 低学年の利用が多い為、低学年が興味を持ちそうな蔵書を少しずつ増やしてきた。

### 【反省】

- 夏休み中などの長期休みに絵本などを町立図書館から借り、学習が終わった子などに自分の興味のある本を見たり読んだりする時間を取ったことも、読書に親しむという点でよかったと思われる。
- コロナ禍、ソーシャルディスタンスを取る目的で対人ゲームの利用制限を行う中で、読書する姿が増える場面もあった。

## 西地区児童館

### 【現状】

- 図書が古く子ども達の目を引く本がない。そのため、子ども達も学校の図書館から借りてきた本を読むことが増えている。
- 放課後に学習時間を30分確保しており、「本を読む」「絵本にふれる」等の目的から、時間が余った生徒は読書をしている。職員の手が空いている時は別室で紙芝居や読み聞かせを行っている。
- 西部小学校の図書館で廃本になった本をいただいて、児童館の図書と入れ替えている。

### 【反省】

- 早く学習を終えて時間が余った児童に実施している本の読み聞かせや紙芝居は、「自分も本を読んで聞かせたい」「この前読んでもらった絵本を読みたい」と児童が希望するようになり、児童が本と接する機会を増やせていると感じている。
- 児童館を利用する児童が増え、遊びの時間に読み聞かせをする時間が取れていない

## 中軽井沢児童館、長倉地区児童館、南地区児童館

### 【現状】

- コミック本を好きな場所で、好きな体勢で読んでいることが多い。そういう空間を大切にしている。
- 月3回の『幼児のつどい』では、絵本、紙芝居、大型絵本などの読み聞かせをしながら、読み聞かせの大切さも伝えるようにしている。

### 【反省】

- 読み聞かせボランティア「オオルリ」の皆さんに来館してもらったことで、より楽しみが広がったように感じた。今後もお願いしていきたい。

## 子育て支援センター

### 【現状】

- 子育て家庭に対して育児不安の解消や相談指導、乳幼児の遊び場とその保護者の交流の場を提供するとともに、子育ての情報を収集し、周知を行い、地域全体で子育て家庭を応援している。  
その中で0～3歳児向けのおはなし会（読み聞かせ）の実施や、絵本アドバイザーなどによる講演会を開催している。乳幼児期に読書に親しむことは大切なことで、引き続き取り組んでいく。
- おはなし会や講演会などを充実させるとともに、親子で本に親しむきっかけを提案し、子育て事業を側面から応援している。
- 利用者の年齢に沿った0～2歳向けの図書の充実を図り、親子のふれあいを大切にしながら、本に親しむ環境づくりに努める。

### 【反省】

- 毎月のあかちゃんのおはなし会（0～1歳児向け）、季節のおはなし会（2～3歳児向け）において、大型絵本や紙芝居など絵本の読み聞かせを実施。子育て講演会では外部講師を招き、年2回程度絵本に親しむことを目的とした講演会を開催し、親子のふれあいを大切にしながら、本に親しむきっかけを提案することができた。
- 子どもの発達段階に応じたブックリスト作成の選書を行ったが、ブックリストには表紙やコメントを入れられたらよかった。

## 保健センター

### 【現状】

- 親子のふれあい促進や子どもの豊かな心を育むために絵本を配布している。  
ファーストブックは平成19年12月より母子健康手帳交付に併せて配布。  
セカンドブックは平成22年度より3歳児健診時に配布している。
- 絵本の配布に併せて読み聞かせの啓発を行い、読書に親しむことにより、子どもの感性や思考力、想像力を養い、親子のふれあい、人とのふれあいを深めるように努めている。

### 【反省】

- 母子健康手帳交付時にファーストブックの配布、3歳児検診時にセカンドブックの配布を行い、同時に読み聞かせの啓発を実施し、親子のふれあいの機会をつくるきっかけとなった。

ファーストブック		セカンドブック	
令和2年度	120冊	令和2年度	149冊
令和3年度	93冊	令和3年度	159冊
令和4年度	93冊	令和4年度	117冊
令和5年度	92冊	令和5年度	161冊
合計配布数	398冊	合計配布数	586冊

## 町立図書館

### 【現状】

- 町立図書館は、昭和 51 年開館の離山図書館と平成 25 年 4 月開館の中軽井沢図書館があり、児童エリアについては中軽井沢図書館で充実させている。子ども向けのおはなし会、読み聞かせなどにより、読書に親しみやすい環境づくりに努めている。

### 【反省】

- 借りた本を記録できる「としょかんのつうちょう」の導入により、読書活動の振り返りと幅広いジャンルの本の選択につながった。
- 子どもの発達に応じた読書活動の支援のための「おすすめの本」リストを作成できた。
- 児童コーナーの四季折々の飾り付けが利用者より好評を得ており、親しみやすい場となっている。
- 中高生向けの図書を中心とした YA（ヤングアダルト）コーナーが充実しつつある。
- こもれびの街講座による出張おはなし会が増えており、読書活動の一環につながっている。
- 町内各施設に団体貸出の周知を行い、貸出数も増えてきている。
- 子ども用のレファレンスコーナーを設置し、図書資料活用のしかたの 1 つとなっている。

## 第4章 第4次子ども読書活動推進のための 今後の計画（団体）

### 軽井沢幼稚園

- 平均貸出数などの数字にとらわれず、子ども達が毎日の生活の中で不思議や疑問と出会った時に、絵本や図鑑を手取る気持ちを育てていきたい。
- 絵本の管理。子供が手に取りやすく、興味と絵本が結び付きやすい環境を整えていくこと。
- 教師の絵本勉強会の充実。
- 子どもが自分で絵本を作っているのだから、作りたい、作りやすい環境をつくる。
- 子どもの実体験と絵本の出会いを大切にしたい。

### 聖パウロ幼稚園

- 絵本、紙芝居などにより触れられるよう、引き続き読み聞かせや教育活動に使用していきたい。

### 森のようちえんぴっぴ

- 日々の保育の中で、たっぷり、じっくり、たくさんのおはなしの世界にどっぷり浸らせてあげたい。保護者や周りの大人も絵本の世界を楽しむ機会を引き続き大切にしたい。

### 東保育園

- 年齢ごとにおすすめの絵本やお話についてお知らせすることで、保護者に対して読み聞かせの大切さを伝えていく。
- ボランティアによる読み聞かせを継続していく。
- 引き続き自由に絵本を手にとって読める環境を工夫していく。

### 中保育園

- 子どもがいつでも本を手取れる環境づくりを日々考え工夫する。
- 職員の知識、技術の向上
- ボランティアによる読み聞かせの継続（年7回）
- 保護者への読書活動啓発。

## 西保育園

- 図書室がないため、廊下に設置した絵本コーナーに絨毯、ベンチ、肌触りの良いぬいぐるみなどを置き、リラックスできるような環境づくりを行う。
- 「園だより」「くらすだより」で引き続き子どもが興味のある絵本の紹介を行う。また、保護者が興味を持ってそうな書籍も紹介する。

## 南保育園

- 自由に本を手にとって読める環境づくりを推進するとともに、絵本（資料）の充実を図る。
- ボランティアなど読書活動協力団体との協力を積極的に行い、支援をしてもらう。
- 絵本コーナーを設置し、新しい本やおすすめの本などをラベルを貼って紹介し、子ども達や職員が本に親しめるきっかけをつくる。
- 話題の本や子ども達が興味を持ちそうな本、読んでもらいたい本を購入していく。
- 引き続き自由に本を手にとって読める環境づくりを推進するとともに、絵本コーナーの充実を図っていく。
- 職員間での読書活動の情報交換を行い、絵本に対する知識や読み聞かせ技術の向上を図る。
- ボランティアとの協力を積極的に行い、絵本の楽しさを伝えていく。
- クラス便りに、おすすめの本やクラスで読んでいる本などを掲載し、保護者に対して読書活動推進のための啓発を行っていく。

## おおきくなあれ保育園

- 保護者などの意見、感想を伺いたい。

## ポピンズナーサリースクール軽井沢風越

- 今後貸出を行う予定はないが、絵本や図鑑などを子ども達が自由に読める環境づくりをしていきたいと思っている。

## 東部小学校

- 朝読書の充実
- 担任の先生、PTA、職員による定期的な読み聞かせの実施
- 館内表示の工夫
- 児童に興味を持たせるコーナーの充実
- 絵本、シリーズ物の充実
- 読書旬間の内容充実
- 多読者への年度末の表彰

## 中部小学校

- 朝読書の充実
- 本に親しみを持って、活字離れをなくし、図書館を利用してもらう
- 図書委員会による、いろいろなイベントの実施
- 季節や、その時期に話題になった本のコーナーの作成

## 西部小学校

- 今後もボランティア、PTA、担任の先生、職員による読み聞かせなど、多様な読書活動を行っていききたい。
- 公共図書館や町内の小中学校、高校と連携してお互いの蔵書が見られるシステムを導入し、相互貸借をスムーズに行える環境を整えていききたい。
- 子どもたちの多様なニーズに応える図書、教科の学習で必要な図書をできる限り揃えていききたい。
- 児童会活動と協力し、一層子どもたちが本に興味を持てるような活動を行いたい。
- タブレットと本が共存できるような体制を作っていくことが必要だと感じている。そのため司書が各種研修を受けるなど、積極的に情報を得るようにしていきたい。

## 軽井沢中学校

- 現在行っている取り組みの充実。
- 図書館蔵書検索サイト「カーリル」などを活用し、他校との相互貸借の推進、共通ガイドラインの作成、連携の推進。
- 町立図書館との連携推進。
- 軽井沢町立図書館デジタルアーカイブ、協働電子図書館「デジとしよ信州」等の授業活用の推進。
- 自校の図書の充実。
- 自己研鑽のための積極的な研修への参加。
- 司書教諭との共同研修。

## 軽井沢高校

- 授業や読書での図書館利用を促進するため、魅力ある図書館づくりを行っていく。
- 生徒の読書意欲を高めるための広報活動と授業連携を行えるよう、教職員と連携していく。
- 文化祭、修学旅行、進路選択など、時期に応じた資料提供を行う。軽井沢町や地域の小中学校との連携を深め、相互貸借などを行い、生徒が適切な資料を手にとれるよう環境を整備していく。
- 時事、季節に合わせた展示を行い、生徒の興味関心を得られるような活動をしていく。

## 東地区児童館

- 引き続き本を紹介したり図書館の本を利用して、新しい本、古い本の良さを知らせたい。

## 中地区児童館

- 引き続き児童、特に低学年の児童が興味を持つ本を少しずつ増やしていくことにより、読書に親しむ児童の増加を図る。

## 西地区児童館

- 本の読み聞かせが始まると6～10人の児童が集まるので、機会を増やしていきたい。特に1～2年生は自分では読めない図鑑などの音読も喜んでいる。

## 子育て支援センター

- 関係機関との連携・協力による読書活動の推進。

## 保健センター

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて保健センター内に絵本を設置しなくなって以降、健診の待ち時間等に絵本を読んでもらう機会はないが、ファーストブックやセカンドブックの配布により、絵本を通して親子のふれあいを深めていきたい。

## 町立図書館

- 図書館が子ども読書活動推進の中心的な役割を担い、乳幼児から小・中・高校生などの発達段階に応じた読書活動の支援を行っていく。
- 中軽井沢図書館は、幼児・児童にとって気軽に使いやすい図書館を目指し、運営に取り組む。
  1. 基本理念に「子どもが読書に親しむ図書館」を掲げる。
  2. 子ども達が読書を通じて豊かな心を育めるような児童エリア、おはなしスペースを設置し、周囲に気兼ねなく読書活動ができる環境を整える。
  3. 子ども読書活動に関する事業の充実を図る。
- 親子で本を読む楽しさや大切さを伝えるため、子どもの読書に関する講演や講座を引き続き開催していく。
- 子ども達の多様な読書機会の確保のため、多言語の図書を導入、読書バリアフリーの更なる推進のための広報に努める。（『文科省第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要』より引用）
- 電子書籍貸出サービスの周知、図書の充実に努める。（『文科省第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要』より引用）
- 定期的なおはなし会の実施を継続する。
- 配架レイアウトの見直し・改善を行っていく。
- 文化講座等のイベントを引き続き行っていく。
- としょかんのつうちょう、子ども向けレファレンスコーナー、発達段階に応じたおすすめ本のリスト作成などを継続して行っていく。
- ボランティアと協力し、子どもが読書に親しめるようなイベントを計画していく。



## 第5章 第4次子ども読書活動推進に向けた 総合的取組みについて

### 1. 家庭にて・・・

◎家庭の読書活動は、子どもが初めて本と触れ合う場所であり、読書は親子などのふれあいやコミュニケーションを深める手段の一つです。読書習慣が日常生活の一部となるように親などが積極的に図書館を利用し、一緒に来館していただけるような図書館事業の広報活動に努めます。（保護者などが連れてこなければ図書館というものが伝わらない。）

- ・子どもだけでなく、保護者などが関心を高める講演会や、イベント開催に努めます。
- ・関係機関の推薦図書を共有し、保護者などが関心を持っていただくように努めます。
- ・ファーストブック、セカンドブックの大切さを関係機関と共有します。

### 2. 地域にて・・・

◎軽井沢町立中軽井沢図書館は建設の際、「子どもが読書に親しむ図書館」を念頭に置き環境を整備し運営してきました。特に、子どもと本が出合える場所は、家庭・保育園や幼稚園などの図書室・学校図書館以外に出会える場所が当館です。自分の感性（表紙絵など）で本を自由に選び、読書（本）への楽しみ、知識（情報）を得ることができます。

当館は「くつかけテラス（指定管理業者）」の一部でもあります。子どもを持つ多くの方が当施設へ参加するような行事への協力・連携を深め、地域の図書館利用への一助として連携して運営していきます。

- ・当施設を利用した地域活動と協力し、図書館への誘導（来館者）を努めます。
- ・出前講座（こもれびの街講座）により、読み聞かせの普及に努めます。

### 3. 学校等にて・・・

◎子どもが読書に親しみ、読書を習慣づけるために、学校等においては児童生徒が自由に読書を親しみ、読書の幅（生涯への成長に伴う）を広げるための環境の整備を実施し、身近な場所（空間）となるよう、努めていく必要があります。

幼稚園や保育園においては、乳幼児が、絵本や物語に親しむ(触れる)機会を確保する時間が必要となります。そのために、興味や関心がわく環境（読み聞かせ時間を含む）の整備や、家庭にも読書活動推進の情報が必要となります。

- ・幼稚園や保育園では図書(本)に触れることができるスペース確保に努めるとともに、家庭での読書活動の大切さを伝えることに努めます。
- ・学校図書館は、児童生徒、学校が必要としている本のリクエストを募り選書、購入。また、各学校図書館との連携、軽井沢町立図書館との連携を図り、団体貸出や、相互貸借を活用し、資料の充実に努めます。

#### 4. 関係機関にて・・・

◎軽井沢町立図書館は、将来を担う子どもたちの読書活動の拠点であり、地域振興や生涯学習の場として、人づくりのため、読書活動関係機関との連携に取り組む支援をする必要があります。また関係団体は、子ども読書活動推進のため、更なる相互連携に努めます。

- ・幼稚園や保育園、公共施設は、家庭での読書の必要性を伝え、乳幼児が興味を持つような活動、場所作りに努めます。
- ・学校図書館は団体貸出や相互貸借など積極的に利用し、不読率を下げ、読書活動の推進を図ります。
- ・軽井沢町立図書館は、関係団体との連携・協力の推進強化に努めます。

#### 5. 本を貸すだけじゃない・・・

- ・みんなの居場所としての図書館（図書室）

子どもの居場所として、また学びの場所として図書館へ来館してもらう。

- 当事者が職員に声をかけてきたときは傾聴し、支援が必要なら関係機関を紹介する。↳ そっと見守る。
- 助けになりそうな情報（書籍）をわかりやすく配置する。

- ・地域資料は町を支える宝物

個人や団体が持っている資料を収集し、アーカイブ化する。

- これからの軽井沢を担う子どもたちの学習の一つとして、町の歴史を知り、後世に伝えていく。

→ デジタルアーカイブの授業での利用推進。



第4次軽井沢町子ども読書活動  
推進計画

発行 令和7年4月  
企画・編集 軽井沢町教育委員会  
軽井沢町立図書館  
〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 3037-18  
☎ : 0267-41-0850 FAX : 0267-41-0851  
e-mail : [library@town.karuizawa.nagano.jp](mailto:library@town.karuizawa.nagano.jp)